

次の文を読み問1～問3に答えよ。(2020年メディカ①午前・在宅)

Aさん(55歳、男性)は妻(57歳)と2人暮らし。4年前に筋萎縮性側索硬化症(ALS)と診断され、在宅で療養を続けていた。その後、Aさんは球麻痺や呼吸筋の麻痺が徐々に進み、胃瘻造設と経管栄養の開始、非侵襲的陽圧換気療法導入のため入院し、妻が胃瘻と非侵襲的陽圧換気療法の管理や使用方法を習得し自宅に退院となった。Aさんは今後、気管切開を受ける予定である。妻は専業主婦としてAさんと暮らしてきて、Aさんの生活の全般を支えてたいと考えている。Aさんは介護支援専門員、訪問看護師、訪問介護員、理学療法士によるサポート、在宅診療の医師による往診、神経難病の専門医による往診を受けている。現在は要介護4である。

問1

Aさんの訪問看護については、B訪問看護ステーションが週5日、C訪問看護ステーションが週2日訪問看護を行っている。Aさんの訪問看護費用の算定について最も適切なのはどれか。

- 1、 B・C訪問看護ステーションともに介護保険で算定する
- 2、 B・C訪問看護ステーションとともに医療保険で算定する
- 3、 B訪問看護ステーションは医療保険、C訪問看護ステーションは介護保険で算定する
- 4、 B訪問看護ステーションは介護保険、C訪問看護ステーションは医療保険で算定する

問2

退院後3日目、B訪問看護ステーションの訪問看護師が訪れると、妻よりAさんの便が緩くなってきていると相談があった。Aさん本人に確認すると、胃瘻からの経管栄養注入後に便意をもよおすという。訪問時のバイタルサインは体温 36.5℃、血圧 122/78mmHg、脈拍 76/分、腸蠕動音は亢進している。1回に栄養剤 400mLと水分 100mLを注入している。Aさんの妻への指導内容として適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1、 栄養剤の注入速度を遅くする
- 2、 栄養剤が残ったら冷蔵庫で保管する
- 3、 水分の注入は中止する
- 4、 栄養剤は注入直前まで冷蔵庫で保管する
- 5、 胃瘻に接続するチューブの洗浄方法を確認する

問3

退院から半年が経過し、Aさんは24時間の人工呼吸器管理の為に気管切開を行った。術前のAさんは徐々に衰えはみられたものの、かろうじて声は出せており、妻を呼び、会話による意識疎通はできていた。訪問介護員や訪問看護師とは簡単な意思疎通でできており、妻を介して詳細な意思を伝えてもらっていた。気管切開により声が出なくなり、今後の意思伝達について方法を検討していく必要が生じた。Aさんは自分の意思が伝わらないことに不安がある。妻も自分がいないと意思の疎通が図れないのではないかと心配している。看護師の関わりとして、最も適切なのはどれか。

- 1、 発声用バルブ付きカニューレを使用する
- 2、 透明文字盤などの新たなツールの導入を提案する
- 3、 クローズド・クエスチョンによるコミュニケーションだけにする
- 4、 これまでの妻を介してのコミュニケーションを継続する

次の文を読み問4～問6に答えよ。(2020年メディカ①午前・看護の統合と実践)

病院から10分ほど離れたビルで火災が発生し、多数の傷病者が搬送されてくるという連絡が入った。また、ビル近辺の居住者が、火災によって気分が悪くなったと徒歩で来院し、外来受診を希望している。

問4

搬送されてくる患者を受け入れるときの救急外来看護師の行動で最も優先度が高いのはどれか。

- 1、 火災の原因追究
- 2、 身元確認の準備
- 3、 高濃度の酸素吸入の準備
- 4、 すずを取り除くための清拭の準備

問5

病院には複数の患者が搬送された。患者の症状で治療の優先度が最も高いと思われるのはどれか。

- 1、 歩けるが鼻毛が焦げている
- 2、 足底に熱傷を負って歩けない
- 3、 背中の半分にI度の熱傷を負っている
- 4、 避難時に転倒し、車いすが必要になった

問6

傷病者の1人が一酸化炭素中毒であった。一酸化炭素中毒患者への対応で誤っているのはどれか。

- 1、 意思レベルを確認する
- 2、 低酸素血症の確認をする
- 3、 皮膚が赤味を増しているか確認する
- 4、 パルスオキシメーターの値が正常であれば問題ないと判断する

次の文を読み問7～問9に答えよ。(2020年メディカ①午後・成人)

Aさん(55歳、会社員)は、大動脈弁狭窄症の診断を受け、大動脈置換術を受けるため入院となった。入院時のバイタルサインは、体温 36.2℃、脈拍 80/分、呼吸数23/分、血圧100/68mmHg、経皮的動脈酸素飽和度 95%であった。左室駆出率は 48%、NYHA 分類Ⅱ度であった。

問7

入院時の A さんに考えられる状態で最も適切なのはどれか。

- 1、頻脈である
- 2、右室肥大である
- 3、左室機能は低下している
- 4、身体活動時は症状が全くない

問8

Aさんは機械便による大動脈弁置換術、生体情報モニター、人工呼吸器を装着され ICU へ入室した。心嚢・縦隔・左胸腔のドレーン、尿管カテーテル、肺動脈カテーテル、胃管チューブ、動脈・中心静脈・末梢のラインが挿入されていた。術後1時間、心嚢・縦隔ドレーンから 310mL/時の濃い血性の排液、左胸腔ドレーンから 50mL/時の血性の排液があり、体温 36.8℃、脈拍90/分、呼吸数15/分(呼吸器に同調)、血圧89/62mmHg、経皮的動脈酸素飽和度95%、心係数 2.1/L/分/m²である。心嚢・縦隔・左胸腔ドレーンにエアリークはない。最も注意すべき術後合併症はどれか。

- 1、肺瘻
- 2、乳び胸
- 3、低心拍出量症候群
- 4、早期ダンピング症候群

問9

Aさんの状態は安定したため、ワルファリンを自己管理で服用して術後2週間で退院予定となった。ワルファリンの服用に関する指導内容で適切なのはどれか。

- 1、「出血傾向に注意が必要です」
- 2、「術後3か月まで内服が必要です」
- 3、「白血球の値で薬の量が調整されます」
- 4、「ビタミン B12を含む食品を控えてください」

次の文を読み問10～問12に答えよ。(2020年メディカ①午後・成人)

Aさん(60歳、男性)は妻と2人暮らし。近所に長女が住んでいる。半年ほど前から食後の心窩部不快感が出現し、最近では嘔吐することもあった。受診して精査の結果、幽門部全周性に病変があり、腹膜播種、臍頭部への直接浸潤、左肺上葉への単発転移が認められた。医師からは進行胃がんであり、未治療の場合は数か月1年程度の予後であることが説明され、栄養状態改善のため入院となった。

問10

予後の説明の後、Aさんは取り乱した様子でベッドに臥床したまま誰とも話をしようとしなない。Aさんの混乱した様子を見て、妻から「どのように夫に接したらよいかわからない。残された時間が少ないと思うとやりきれない気持ちになる」と訴えがあった。この時期の看護師による、Aさんの妻への関りで最も適切ななおはどれか。

- 1、しばらくAさんと関わらないことを勧める
- 2、Aさんへの可能な日常生活の援助を一緒に行うことを提案する
- 3、急変の可能性については伝えないようにする
- 4、可能な限り専門用語を用いて病状の説明をする
- 5、希望があるまで療養に関する情報は提供しない

問11

その後、家族の強い希望で、AさんにTS-1の経口投与とシスプラチンの静脈投与による化学療法が行われ、腫瘍の縮小がみられた。一度退院したが胸膜への転移による左側胸部痛が出現し、再び疼痛コントロール目的で入院となった。強い痛みが常時あるため、オピオイドの使用が検討されたが、Aさんは「それを使ったらおしまいだ。まだいい」と拒否している。このときの看護師によるAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

- 1、「体がとても楽になりますよ」
- 2、「痛みがあることで、困ったことはありませんか」
- 3、「もう少し痛みがひどくなるまで待ちましょうか」
- 4、「薬剤を使用する前から副作用の心配はしなくても大丈夫ですよ」

問12

入院2週間後、フェンタニルパッチで疼痛コントロールが可能となったため、Aさんから在宅療養を希望された。経口摂取がほとんどできないため、皮下埋め込み式ポートから中心静脈栄養法を実施している。Aさんは倦怠感が強くほとんど寝たきりで過ごしているため、妻は訪問介護や介護用具のサービス利用を希望している。近所に住んでいる長女が入院前からAさん宅の家事を手伝うことも多かった。看護師によるAさんの妻への対応で最も適切なのはどれか。

- 1、「訪問看護の利用は、しばらく不要です」
- 2、「訪問看護の時間などの調整は病棟看護師が行います」
- 3、「娘さんと在宅療養に関する話し合いをされていますか」
- 4、「病状から考えて、来週には退院できるようにしましょう」

次の文を読み問13～問15に答えよ。(2020年メディカ①午後・老年)

Aさん(76歳、男性)は、数年前から腰痛があり、腰部脊柱管狭窄症が疑われている。日常生活動作は自立しているが、歩くと腰が痛むため活動は控えがちである。Aさんは妻と2人暮らしである。息子が1人いるが、他県に在住している。

問13

腰部脊柱管狭窄症の特徴的な症状はどれか。

- 1、突進歩行
- 2、間欠性跛行
- 3、膝蓋腱反射の亢進
- 4、アキレス腱反射の減弱

問14

Aさんは脊髄造影検査を受けることになった。

検査についての説明で適切なのはどれか。

- 1、検査前の絶食は必要ない
- 2、検査直後に飲水は勧めない
- 3、検査中は水平臥位にする
- 4、検査後は頭部を挙上する

問15

Aさんは腰部脊柱管狭窄症の診断を受け、保存療法が選択された。Aさんと家族に対する生活指導で最も適切なのはどれか。

- 1、「長距離の散歩をしてください」
- 2、「移動は車いすを使用してください」
- 3、「就寝時はコルセットを着用してください」
- 4、「痛みを感じたら処方された鎮痛薬を飲んでください」

次の文を読み問16～問18に答えよ。(2020年メディカ①午後・老年)

Aさん(70歳、男性)は、65歳のときに胃がんで胃全摘術を受けた。その後も癒着性腸閉塞で2回入院し、保存的に治療を行った。今回、食事摂取後に腹痛と嘔吐があり来院した。腹部膨満があり、腹部エックス線撮影で癒着性腸閉塞と診断されて緊急入院となった。入院時、Aさんは意識清明で、バイタルサインは体温37.2℃、脈拍83/分、血圧140/80mmHg、呼吸数20/分、経皮的動脈酸素飽和度98%であった。身長170cm、体重60kg、60歳ころは体重85Kgであった。入院後、鼻腔からイレウス管が留置された。

問16

Aさんへの看護で適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1、イレウス管は毎日交換する
- 2、積極的に離床し歩行を促す
- 3、排液の量と性状を記録する
- 4、絶食であるが、飲水はできる
- 5、持続的な低圧持続吸引を行う

問17

入院後、Aさんへの看護として、脱水に気を付けるよう医師から指示があった。

Aさんに起こりやすい脱水についての説明で最も適切なのはどれか。

- 1、尿量が増加する
- 2、血漿浸透圧が上昇する
- 3、早期の症状として強い口渇がある
- 4、早期の段階から血圧が低下する

問18

Aさんは、イレウス管の留置による保存療法によって順調に回復し、退院の日程も決まった。退院に向けて、Aさんと家族から「何回も腸閉塞で入院しているが、今後同じようなことが起こるのではないかととても心配である。退院してから、どんな生活をすれば良いか教えてほしい」との相談があった。看護師の説明として適切なのはどれか。

- 1、「水分摂取を控えるようにしましょう」
- 2、「疲れるくらいきつめの運動をしましょう」
- 3、「次は再発しないために手術をした方が良いでしょう」
- 4、「きのこ類やゴボウなどを避けましょう」

次の文を読み問19～問21に答えよ。(2020年メディカ①午後・小児)

A君(8歳、男児)は小学3年生で、会社員の父親と専業主婦の母親と妹(5歳)との4人暮らしである。ある日、小学校で体育の授業中にとび箱をしている際に転倒し、利き手である右腕をついた。Aくんは右上腕に腫脹と熱感がみられたため、母親に連絡の上、A君を病院へ連れて行った。母親も間もなく病院に到着した。単純エックス線検査の結果、A君は右上腕骨顆上骨折と診断された。

問19

完全骨折が認められたため、A君は右腕全体をギブス固定の上、入院して翌日手術を受けることになった。入院から手術までの間に起こる合併症に対する観察項目はどれか。2つ選べ。

- 1、心拍数
- 2、指先の色
- 3、右腕の可動性
- 4、手指の感覚麻痺
- 5、手指の関節拘縮

問20

術後経過は良好で、手術後3日にはギブス内に少しゆとりができたため、ギブスのまき直しが行われ、固定したまま退院となった。また、退院翌日から学校への登校拒否がおりた。生活上の注意点について、A君と母親への説明で最も適切なものはどれか。

- 1、「シャワーを浴びてもかまいません」
- 2、「寝るときは体を右に向けて寝ましょう」
- 3、「体育も授業に参加してもかまいません」
- 4、「ごはんはお母さんが食べさせてあげてください」

問21

退院後も経過良好で、退院から4週間後にギブスが外された。A君と母親へ、次回受診時に経過が良ければ手術時に刺入した鋼線を抜去すると説明があった。次回受診までのA君は活動についての指導で最も適切なものはどれか。

- 1、「右腕を曲げたままにしましょう」
- 2、「右腕で重い物を持っててもかまいません」
- 3、「体育の授業は必ず見学するようにしましょう」
- 4、「自分で右手を少しずつ開いたり、ゆっくり右肘を伸ばしたりしましょう」

次の文を読み問22～問24に答えよ。(2020年メディカ①午後・母性)

Aさん(25歳、初産婦)は、営業の仕事をしており、夫(30歳、会社員)と2人暮らしである。身長154cm、非妊時体重52kg。今までの妊婦健康診査で異常は指摘されていない。妊娠30週3日の妊婦健康診査を受けたところ、体重58kgで前回の妊婦健康診査から1kg増改していた。血圧124/62mmHg、尿蛋白(±)、尿糖(-)、浮腫(±)、Hb10g/dL、Ht30%、胎児推定体重1500g。

問22

このときのAさんの状態として最も考えられるのはどれか。

- 1、妊娠糖尿病
- 2、妊娠性貧血
- 3、胎児発育不全
- 4、妊娠高血圧症候群

問23

最近、Aさんは仕事が忙しく、ゆっくり休めていない。仕事中心にお腹が張り、定期的に痛みを自覚することがある。性器出血や破水感はない。妊娠34週3日の妊婦健康診査では、体重59.5kgで前回の妊婦健康診査0.5kg増加している。尿蛋白(±)、尿糖(-)、浮腫(±)。子宮口開大1cm。AFI<羊水インデックス法>14cm。Aさんの状態で最も考えられるのはどれか。

問23

- 1、切迫早産
- 2、羊水過多
- 3、前期破水
- 4、正常な経過

問24

Aさんは妊娠36週3日になり、現在入院中である。体重61.5kgで前回の妊婦健康診査から2kg増加している。血圧124/70mmHg。尿蛋白(±)、尿糖(-)、浮腫(-)。子宮口開大1cm。胎児推定体重2500g。胎児心拍数144/分。AFI<羊水インデックス法>10cm。

Aさんのアセスメントで最も適切なものはどれか。

- 1、入院は産後まで続ける必要がある
- 2、胎児の発育は在胎週数に応じている
- 3、妊娠中の推奨体重増加量を超えている
- 4、胎児心拍数は正常範囲から外れている